

今回は本田作業についてです。田植えは5月20日～25日頃が最盛期となるよう、作付面積に応じた作業計画を立てましょう！

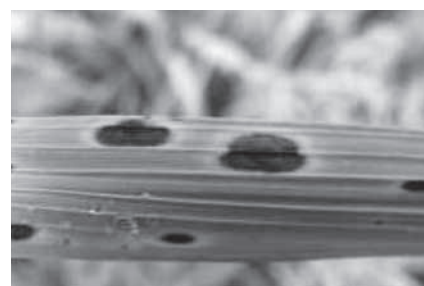
ー土づくりー

近年、県内や魚沼地域の一部でごま葉枯病が多発生しています。南魚沼地域ではまだ少発生ですが、十分な注意が必要になります。ごま葉枯病は、秋落ち田で発生しやすいためケイ酸や鉄を含む土づくり肥料を施肥し、予防しましょう。

品名	成分 (%)	標準施肥量 (10a)
魚沼口マンアイアンスター	ケイ酸：12、リン酸：8、苦土：5、鉄：9.5、腐食酸：6	60kg
ケイ酸加里プレミアム 34	ケイ酸：34、カリ：20、苦土：4、ホウ素・鉄：微量	40kg～60kg
ようりんケイカル 23号	ケイ酸：26、リン酸：7、苦土：7	100kg～200kg
ソイルキーパー Fe	ケイ酸：13.5、鉄：19、苦土：1.5	100kg
ソイルキーパー	ケイ酸：26、カリ：4、苦土：4、腐食酸：4	40kg
スーパーシリカプレミアム	ケイ酸：30、苦土：2	60kg～100kg
農力アップ	ケイ酸：30、リン酸：2.5、苦土：1、鉄：12、マンガン：2、ホウ素：0.1	60kg～100kg

ごま葉枯病

- 老朽化水田や秋落ち田で発生しやすく、主に葉身に輪紋上の病斑が出ます。



●地力の低い圃場には堆肥や有機物の施用を！

鶏ふんや堆肥などの有機物を継続して施用すると、地力向上が図られ、栽培後期の窒素発現量が増加し、稲体活力維持や登熟向上が期待できます。

◎本田での作業後は、道路等に泥を落とさないように注意してください。

泥を落としてしまった場合は、速やかに片づけましょう。

※泥を片づけるには、除雪用のプラスチックコップがおすすめ！



ご不明な点等がございましたら JA 普及指導課 (TEL777-3786) までお問い合わせください。

ー育苗管理ー

- 育苗期は温度管理が大切です。生育ステージに合わせた温度管理の徹底により、育苗障害や病害の発生を防ぎ、健苗を育成しましょう。
- これからの時期は天候が変わりやすくなります。急激な温度変化には十分注意しましょう。

△レ苗に注意!!

△レ苗とは…1.5葉期頃、8℃以下の低温にあうと発生しやすい。褐色やあめ色に変わり、育苗箱に局部的に円形・ドーナツ状で発生する。

～耕種的防除～

- 急激な温度変化をさける。
- うすまきを励行する。
- 徒長苗をつくらない。
- 緑化期中、育苗箱下に水を停滞させない。

例年、5月の連休頃にヤケ苗や△レ苗等の発生が多く見られます。うすまきや温度管理の徹底等、病害防止に努め、健苗を育成しましょう。

～薬剤防除～

薬剤名	処理方法	処理時期
タチガレエース M 粉剤	1箱当り 6g 床土に混和	播種前
タチガレエース M 液剤	1箱当り 500～1000倍希釈液を 500ml 土壌灌注	播種時又は発芽後

※耕種的防除を中心に、不安な場合は事前に薬剤防除を行いましょう。

ーいもち病防除ー

コシヒカリBL：育苗箱施用剤による葉いもち1回防除
 従来コシヒカリ、その多品種：育苗箱施用剤＋本田葉いもち防除

【主な箱施用剤】

品名	使用量	使用時期	使用方法	適用病害虫名
Dr. オリゼフェルテラ 粒剤	50g/ 1箱当り	緑化期～ 移植当日	育苗箱に 均一に 散布	いもち病・初期害虫・ イネアオムシ(フタオビコヤガ)等
Dr. オリゼプリンス 粒剤 6				いもち病・初期害虫・ ウンカ類・イナゴ類等

- 葉が濡れていない状態で均一に散布します。
- 茎葉に散布した薬剤がのっている場合は払い落としてください。
- 床土が乾いている場合は、薬剤散布後に散水してから田植えを行いましょう。

携帯メール会員募集!!

無料(通信料は除く)でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。

登録の仕方がわからない方は、携帯を持って普及指導課にお越しください。こちらで登録いたします！

登録は下記メールアドレスへ空メールを送信

beikoku@haisin.jp

または、右記 QR コードをご利用ください。▶



－ 耕うんのポイント －

1. 圃場が乾いてから作業を！

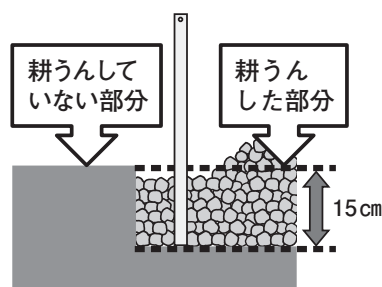
- 乾土効果によって、地力窒素の発現が多くなります。
- 湿った状態で行うと碎土性が悪くなります。

2. 耕深 15cm を目標に！

- 根域を広げ、高温やフェーンの影響を受けにくくなります。

(作土が浅いと根張りが浅く、肥効の持続力も短くなる。)

※ 15cmの確保が難しい圃場は、徐々に深くしていきましょう。



－ 代かきのポイント －

1. ゆっくり丁寧な作業で、できるだけ均平に！

- ゆっくり作業を行うことでワラが浮くのを防ぎます。
- 田面を均平にすることで、早期活着、欠株の防止、除草剤の効果安定と薬害のリスクを軽減できます。

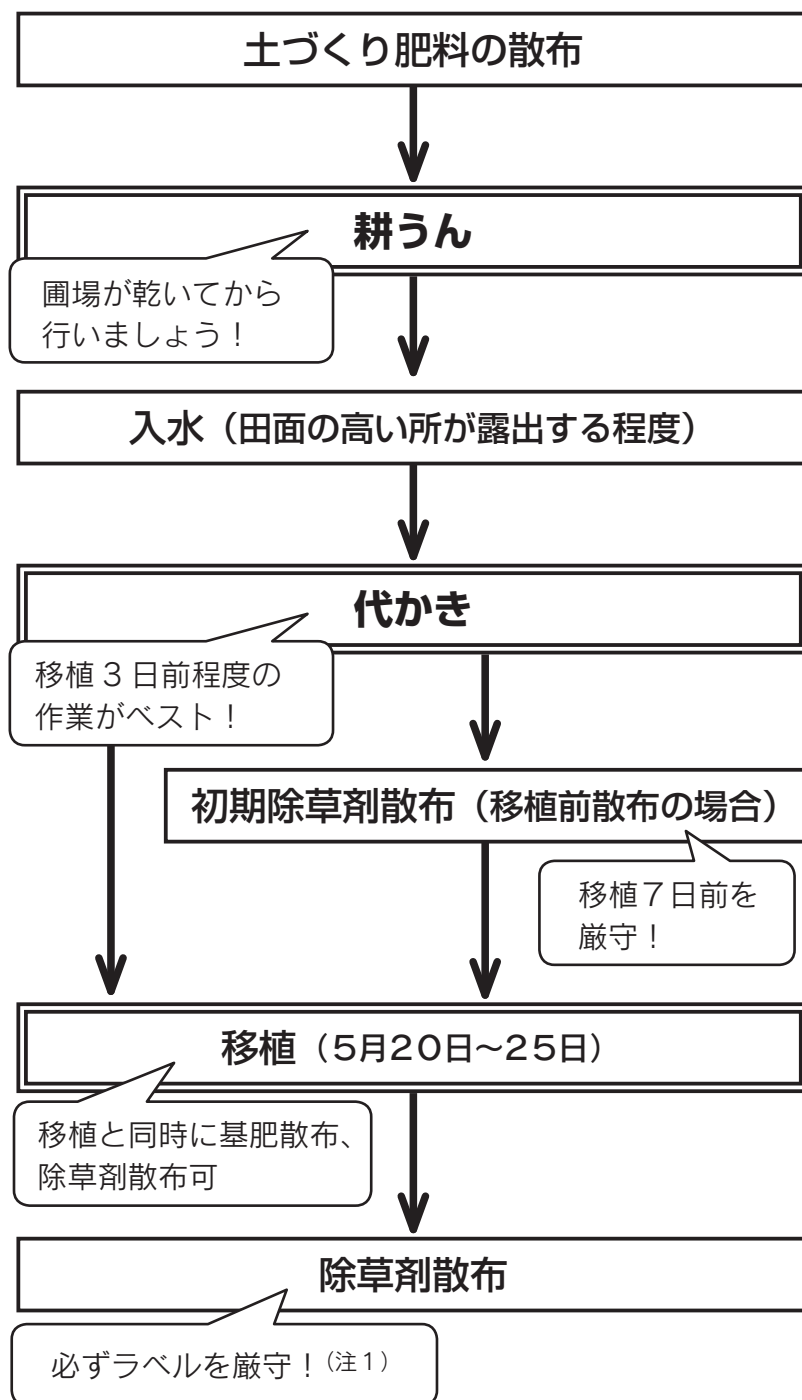
2. 荒代(荒かき)を行うことで効果を高める！

- 本代の前に荒代を行うことで、より均平にし水漏れを防ぎます。

3. 移植2～3日前の作業で雑草抑制！

- 代かき後から雑草の発生が始まります。
- 浮苗等の欠株を防ぐために、土が落ち着いてから(3日程度)移植を行きましょう。

本田作業の流れとポイント



－ 初期除草剤(移植前散布)について －

代かき～移植までの期間が1週間以上空く場合に散布できます。

【主な初期除草剤】

品名	10a当り使用量	使用時期
ユニハーブフロアブル	500ml	・代かき後～移植7日前 ・移植時 ・移植直後～ノビエ1葉期 (但し、移植後30日まで) ※キルクサは移植後15日まで
草笛フロアブル	300ml	
キルクサ1キロ粒剤	1kg	
マーシェットジャンボ	500g	・代かき後～移植7日前 ・移植後1～5日(ノビエ1葉期)

- 散布時は水深3～5cm程湛水し、水口と水尻を必ず止めてください。
 - 原則、散布後7日間は入排水を行わないでください。
- ※水持ちが悪く散布2～3日で田面が露出する場合は、水尻を確実に止めてゆっくり入水します。その際、あふれさせないように注意してください。

田植え前に使用する際は、移植7日前までを厳守してください。

－ 基肥 －

○基肥窒素成分の目安

- 基肥+穂肥の体系施肥の場合…窒素成分3～4kg
- 一発肥料の場合…窒素成分4.5～6kg

【主な基肥肥料】

肥料名	成分量 (%)			慣行栽培米基準施用量	窒素含有量
	N	P	K		
有機30魚沼口マン側条専用粒状	12	15	12	30～40kg	3.6～4.8kg
有機30魚沼口マン500号	15	10	10	20～30kg	3.0～4.5kg
有機30魚沼口マンペーストS043	10	4	3	30～40kg	3.0～4.0kg
有機30魚沼口マン元肥一発	15	8	7	30～40kg	4.5～6.0kg
魚沼口マン有機専用	10	14	10	30～38kg	3.0～3.8kg
魚沼口マン有機一発285	12	8	5	45～50kg	5.4～6.0kg
アグリフラッシュ	14	14	14	20～30kg	2.8～4.2kg

- 例年、倒伏しやすい圃場や田植時期の遅い圃場は減肥しましょう。
- 初めて一発肥料を施用する方は、例年の基肥+穂肥の施肥体系から窒素成分マイナス1割の施用量を基準としましょう。

－ 農薬使用に関する注意点 －

- 登録のある農薬を使用してください。
- 使用回数・使用量・濃度・使用時期等の確認を行い、確実に守って散布してください。
- 防除服・マスク・ゴーグル等を着用し、身の安全を一番に作業してください。

(注1) 農薬の不適正使用は「ついうっかり」では済まなくなっています。(出荷禁止や自主回収等の措置) 必ずラベルの使用基準を確認し、厳守してください。